



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月9日

上場会社名 株式会社イントランス 上場取引所 東
 コード番号 3237 URL http://www.intrance.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)ディグネジオ・フレドリック・レッツ
 問合せ先責任者 (役職名)管理部部長 (氏名)北川 雅章 (TEL) 03-6803-8100
 四半期報告書提出予定日 2022年11月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	290	△86.1	△214	—	△208	—	△208	—
2022年3月期第2四半期	2,090	188.4	381	—	376	—	308	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 △212 百万円(—%) 2022年3月期第2四半期 304 百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△5.63	—
2022年3月期第2四半期	8.33	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	1,604	970	58.9
2022年3月期	1,862	1,182	62.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 945 百万円 2022年3月期 1,157 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	3,102	31.9	20	△89.3	17	△90.8	7	△94.9	0.21	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期2Q	37,131,000株	2022年3月期	37,131,000株
2023年3月期2Q	60,400株	2022年3月期	60,400株
2023年3月期2Q	37,070,600株	2022年3月期2Q	37,070,600株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュフロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響があったものの行動制限の緩和などにより経済活動の正常化が進み、景気回復の兆しが見られました。一方でロシアによるウクライナ侵攻に端を発する燃料価格および原材料価格の高騰、各国での金融引き締めによる為替変動や景気への下押しリスクなど、依然として先行きは不透明な状況となっております。

このような状況の下、当社グループが属する不動産業界では、低金利環境下における良好な資金調達環境を背景として、投資家による物件取得意欲は依然高い状況にあり、不動産市場は底堅く推移いたしました。

また、当社が注力するホテル関連分野の市場におきましては、コロナの影響の縮小による国内旅行者の増加や、訪日外国人旅行者の入国制限が一部解除されるなど、一時的な回復は見せたものの、国内のコロナ感染者の増加や、かつては最大の訪日外国人旅行者であった中国からの旅行者の訪日が、中国本土でのロックダウンが継続していることにより完全に途絶えている状況であり、依然として安定した回復の見通しが立っていない厳しい状況が続いております。その一方、政府が実施する全国を対象とした観光需要喚起策である全国旅行支援（全国旅行割）などによる観光需要の回復等、第3四半期以降の会計期間においては明るい兆しも見え始めております。

このような状況下において、当社グループでは、創業からの主事業でありました「不動産事業」に加え、ホテル・宿泊施設等の運営、支援、開発等の事業を行う「ホテル運営事業」に軸足を置き、事業の整備と成長のための投資を進めてまいりました。その他、当社の連結子会社である株式会社大多喜ハーブガーデンで同施設の運営や卸売販売等を行う「その他事業」について、それぞれ注力してまいりました。

この結果、売上高は290,346千円（前年同四半期比86.1%減）、営業損失は214,224千円（前年同四半期は営業利益381,941千円）、経常損失は208,594千円（前年同四半期は経常利益376,651千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は208,714千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益308,802千円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、セグメントを従来の「プリンシパルインベストメント事業」「ソリューション事業」から、「不動産事業」「ホテル運営事業」に変更しております。このため、前第2四半期連結累計期間との比較については、セグメント変更後の数値に組み替えて比較を行っております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報）」に記載のとおりであります。

(不動産事業)

不動産事業につきましては、当第2四半期連結累計期間において、主にプロパティマネジメントに注力しましたが、販売用不動産の売上が大きく減少した結果、売上高は123,722千円（前年同四半期比93.7%減）、セグメント利益（営業利益）は7,878千円（前年同四半期比98.6%減）となりました。

(ホテル運営事業)

ホテル運営事業につきましては、自社ブランド、グローバルホテルブランドのサードパーティオペレーターとして、ホテル運営受託の獲得を目指し、賃貸借によるホテル経営、コンサルティング等に注力しましたが、観光需要が安定した回復に至っていない状況のため、売上高は53,147千円（前年同四半期比187.1%増）、セグメント損失（営業損失）は77,728千円（前年同四半期は21,221千円の営業損失）となりました。

(その他)

連結子会社の大多喜ハーブガーデンが運営するハーブガーデンにつきましては、SNSによる集客や、国内における観光需要の回復を取り込む施策が奏功し、ハーブガーデン事業の売上高は、コロナ前の水準を上回り順調に推移しましたが、設備投資や、修繕に関する費用が膨らんだ結果、売上高は113,476千円（前年同四半期比7.5%増）、セグメント損失（営業損失）は18,935千円（前年同四半期は11,645千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産は前連結会計年度末に比べ349,282千円減少し1,387,554千円となりました。これは主として、現金及び預金が485,181千円減少したこと等によるものです。固定資産は前連結会計年度末と比べ39,113千円増加し159,040千円となりました。これは主として、有形固定資産が

39,499千円増加したこと等によるものです。繰延資産は、開業費が52,615千円増加し、58,346千円となりました。この結果、資産合計は前連結会計年度末と比べ257,741千円減少し、1,604,941千円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債は前連結会計年度末と比べ23,780千円減少し306,300千円となりました。これは主として、未払法人税等が38,158千円減少したこと等によるものです。固定負債は前連結会計年度末に比べ22,243千円減少し328,280千円となりました。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ46,023千円減少し、634,581千円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ211,718千円減少し、970,360千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月13日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,333,959	848,777
売掛金	31,354	42,726
販売用不動産	353,115	346,062
その他の棚卸資産	12,823	15,552
その他	10,065	137,480
貸倒引当金	△4,480	△3,045
流動資産合計	1,736,836	1,387,554
固定資産		
有形固定資産	40,886	80,385
無形固定資産	3,831	6,665
投資その他の資産		
投資その他の資産	248,209	237,989
貸倒引当金	△173,000	△166,000
投資その他の資産合計	75,209	71,989
固定資産合計	119,927	159,040
繰延資産	5,919	58,346
資産合計	1,862,683	1,604,941
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,437	5,962
1年内返済予定の長期借入金	52,425	45,429
未払法人税等	45,285	7,127
賞与引当金	8,562	5,164
その他	217,371	242,616
流動負債合計	330,080	306,300
固定負債		
長期借入金	311,394	290,235
資産除去債務	30,111	30,178
その他	9,018	7,867
固定負債合計	350,524	328,280
負債合計	680,605	634,581
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,133,205	1,133,205
資本剰余金	903,204	903,204
利益剰余金	△873,201	△1,081,856
自己株式	△2,476	△2,476
株主資本合計	1,160,731	952,076
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△3,157	△6,968
その他の包括利益累計額合計	△3,157	△6,968
新株予約権	24,504	25,251
純資産合計	1,182,078	970,360
負債純資産合計	1,862,683	1,604,941

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	2,090,760	290,346
売上原価	1,427,360	146,408
売上総利益	663,399	143,938
販売費及び一般管理費	281,457	358,162
営業利益又は営業損失(△)	381,941	△214,224
営業外収益		
受取利息	15	6
受取保険金	4,899	—
受取遅延損害金	—	6,036
為替差益	2,914	6,025
その他	2,586	1,314
営業外収益合計	10,416	13,383
営業外費用		
支払利息	4,860	2,189
資金調達費用	2,613	72
和解金	8,232	—
開業費償却	—	5,304
その他	—	187
営業外費用合計	15,706	7,753
経常利益又は経常損失(△)	376,651	△208,594
特別利益		
新株予約権戻入益	1,000	800
特別利益合計	1,000	800
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	377,651	△207,794
法人税等	70,827	919
四半期純利益又は四半期純損失(△)	306,824	△208,714
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,978	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	308,802	△208,714

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	306,824	△208,714
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,889	△3,810
その他の包括利益合計	△1,889	△3,810
四半期包括利益	304,935	△212,525
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	306,913	△212,525
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,978	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	377,651	△207,794
減価償却費	1,047	5,717
開業費償却額	—	5,304
新株予約権戻入益	△1,000	△800
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△815	△8,435
賞与引当金の増減額(△は減少)	△833	△3,397
受取利息及び受取配当金	△15	△6
支払利息	4,860	2,189
資金調達費用	2,613	72
売上債権の増減額(△は増加)	9,709	△11,372
棚卸資産の増減額(△は増加)	1,272,348	4,323
預り敷金及び保証金の増減額(△は減少)	△108,640	—
その他の資産の増減額(△は増加)	155,651	△120,339
その他の負債の増減額(△は減少)	△108,562	18,949
その他	△1,130	△56
小計	1,602,886	△315,645
利息及び配当金の受取額	15	6
利息の支払額	△6,028	△2,475
保険金の受取額	4,899	—
和解金の支払額	△14,400	—
法人税等の支払額	△4,174	△35,864
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,583,199	△353,979
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△466	△44,908
無形固定資産の取得による支出	—	△1,507
開業費の支出	—	△57,919
その他	342	△334
投資活動によるキャッシュ・フロー	△124	△104,670
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	70,000	—
長期借入金の返済による支出	△1,066,300	△28,155
リース債務の返済による支出	△400	△413
新株予約権の発行による収入	—	243
手数料の支払額	△2,538	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△999,238	△28,325
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,172	1,793
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	586,009	△485,181
現金及び現金同等物の期首残高	871,079	1,233,959
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,457,088	748,777

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	計 (注)3
	不動産事業	ホテル運営事業	計			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	1,933,734	18,515	1,952,249	105,534	—	2,057,784
その他の収益	32,975	—	32,975	—	—	32,975
外部顧客への売上高	1,966,710	18,515	1,985,225	105,534	—	2,090,760
セグメント利益又は損失(△)	543,147	△21,221	521,925	△11,645	△128,337	381,941

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にハーブガーデンの運営事業及びハーブの生産事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、報告セグメントに帰属しない本社の費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	計 (注)3
	不動産事業	ホテル運営事業	計			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	113,783	53,147	166,930	113,476	—	280,407
その他の収益	9,939	—	9,939	—	—	9,939
外部顧客への売上高	123,722	53,147	176,870	113,476	—	290,346
セグメント利益又は損失(△)	7,878	△77,728	△69,850	△18,935	△125,438	△214,224

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にハーブガーデンの運営事業及びハーブの生産事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、報告セグメントに帰属しない本社の費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、ホテル運営事業の本格的な展開、経営管理体制の実態の観点からセグメントについて再考した結果、報告セグメントの区分表示を「プリンシパルインベストメント事業」「ソリューション事業」から、「不動産事業」「ホテル運営事業」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。